

## 平成 13 年度第 1 回 OR 企業フォーラム報告

### ●テーマ：「電力の自由化と電力系統の運用」

講師 東京電力株式会社 副社長 白土 良一氏

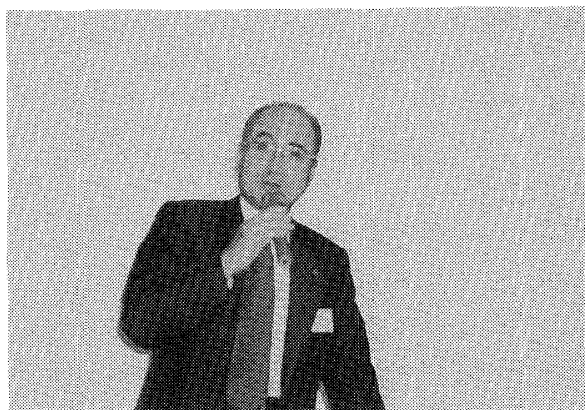
5 月 30 日(木) 学士会館 会議室

さる 5 月 30 日(水)に、学士会館(神田)において平成 13 年度第 1 回 OR 企業フォーラムが開催された。参加者は大学・企業合わせて約 40 名に上り、ゲストスピーカーとしてお迎えした東京電力(株)の白土副社長の「電力の自由化と電力系統の運用」と題した講演の後、活発な質疑応答が展開された。

午後 6 時過ぎに、司会の畑 OR 学会副会長から、白土副社長の略歴等のご紹介の後、いよいよ講演が始まった。

講演は、まず関東周辺の電力系統が発展してきた様子を、日本において電気事業が始められた時代から現在に至るまでの折々の電力系統図を元にご紹介されるとともに、続々と建設される火力発電所の燃料も、時代に応じて石炭から石油、そして LNG へと変わっていったことなどを説明された。また、白土副社長のお若かった頃のトピックスとして、当時千葉に建設された新鋭火力発電所の発電能力が、ちょうどその頃世間に広まった電気釜にすっかり食われてしまったことなどを紹介された。私たちにあって送電線は見慣れているが、電力系統がどのように構築されているかは普段意識することもなく、非常に興味深いものであった。

続いて、講演は需要予測の話に移り、電力は貯蔵できないため需要と供給をバランスさせないと周波数が変動してしまい、需要家の機器へ影響を与えるおそれがあること、そのために季節や曜日に応じて日々の需要曲線を予測するとともに、その需要を賄うだけの電源の準備を行う必要があることなどを説明されたが、電気事業の特殊性と難しさが理解できたような気がした。特に朝の 8 時から 30 分間の関東における電力需要の増加は約 500 万 kW とほぼ四国全体の電力需要に相当し、その制御の難しさに驚かされるとともに、日々大きなトラブルもなくよく制御できているものだ



と、その技術力の高さに感心させられた。ただ、白土副社長のお話によると、「中長期の需要予測は当たらない」とのことであった。

最後に電力自由化の海外事例として英国のプール取引制度と、米国内において最近停電事故で問題になっているカリフォルニア州と、比較的うまく運営されているといわれている東部、ペンシルベニア、ニュージャージー、メリーランド 3 州との比較が紹介されたが、経済性の追求とエネルギーセキュリティ等の公共性をどう両立させるかという問題には、いまだ確固たる回答は見いだせていないようであった。

講演は 1 時間半ほどで終了し、その後参加者から「日本の電力需要の立ち上がりは、他国と比べても、なぜこのように急峻なのか?」といった質問もあり、白土副社長は「日本特有の『横並び』が原因ではないか」などと答えられた。質疑応答は 30 分程度で終了し、その後ビール軽食を伴った懇談会へ移った。

最後になったが、白土副社長から電気事業の様々な一面をお聞きできたが、その中で「電力とはロジスティクス」とのご発言が非常に印象的で、有意義なフォーラムであった。

(文責・研究普及委員 システムプラザ(株) 石村 猛)